

本は戦争に負けたのではなく、おしまいにしたのだ」と、おしまいを繰り返した。「何言ってるんだ、負けたじゃないか」と反発心が起こった。御真影を拝み、天皇の赤子として神風を信じた普通の軍国少年だったから。

9月になり、足柄峠に向かう米軍のジープが悪路の溝にはまって動けなくなっていたんだ。大人と4、5人で出してやった。米兵の通訳が「あなた方も乗りなさい」と。恐る恐る乗った。地蔵堂に戻ると、米兵は大人にも子どもにも等しくたばこを2カートンずつくれた。鬼畜米英と教え込まれてきたが、悪い人じゃないなと思ったんだ。軍国少年を育てる教育は恐ろしい。戦争は二度としてはならん。

(構成・石川 美邦)

Ⅱ 随時掲載



を育ててきた。その経集い団体を設立。会の名に「明」にして、自閉症児の家族るい未来はどんな人にもきつと心を少しでも軽くした来る」という願いを込めた。014年、仲間が12人 イベントでは楽しい雰囲気共有する事を大事にしている。弁当作りでは、言葉で言われただけでは動きづらい子も料理ができるように調理方法を動画にした。全員体験できるように工夫している。家でも作りたいという子も現れた。食後のお楽しみクイズや発表にも力を入れる。発車メロディーで駅名を当て、喝采を浴びた子、新幹線こだまの駅名を暗唱する子など、自分の子の活躍を見て親も笑顔になる。

かわさき市民活動センター ☎044(430)5566  
http://www.kawasaki-shiminkatsudo.or.jp

ベトナムで商機つかめ  
現地展示会 市が出展企業募集  
9月開催

川崎市と経済産業交流に関する覚書を締結しているベトナム南部のバリア・ブントウ省で9月24〜26日、同国南部の各省が工業製品や特産品をPRし、ビジネス交流や貿易の促進を図る「ベトナム南部商工・観光展示会2015」が開かれる。今年初めて日本にも出展を呼びかけており、市は参加する市内企業10社を募集している。

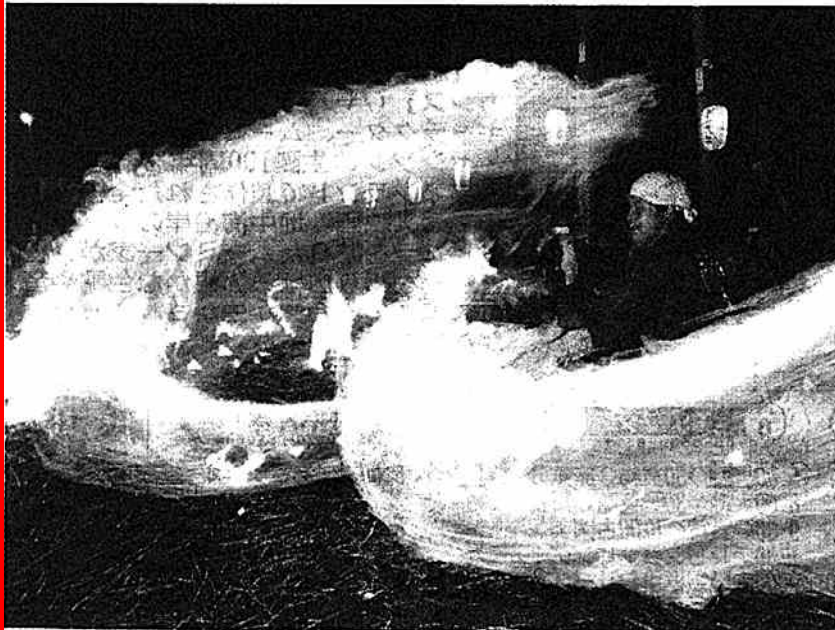
同展示会はベトナム南部の20省が持ち回りで毎年開催しており、今年で5回目。昨年ロンアン省で開かれた展示会には、225企業が585ブースを出展。延べ15万人が来場し、現場での取引額は約1億5千万円に上ったという。

今年は全体で450ブース規模の展示会を企画。このうち日本の企業、団体、自治体には50ブースが無料で提供される。

川崎市が出展を募集している市内企業の対象は、自社製品のベトナムでの販路拡大を目指す企業やベトナム市場のニーズを知りたい企業で、業種は製造業全般や環境技術関連、農業機械など。1企業1ブースの出展が可能で、出展料は無料だが、往復旅費と宿泊費は別途必要。市国際経済推進室は「ベトナムでのビジネスチャンスの可能性を確かめられる良い機会なので、ぜひ参加してほしい」と呼びかけている。問い合わせ

アマ混声合唱団「樹林」  
団「樹林」が16日、創立30周年を記念したコンサート  
樹林は1985年、「宮曲を披露する。」

は、同室☎044(200)2363。締め切りは8月28日。  
(山下 徹)



五穀豊穰（ほうじょう）や悪疫退散を祈願する秦野市の「瓜生野（うりゅうの）百八松明（ひやくはつたい）」が14日夜、同市南矢名の龍法寺門前などで行われた一写真。

江戸中期に始まったと伝えられ、1975年に市の無形民俗文化財に指定された。保存会（山口多美子会長）が麦わらで作った

炎に願う五穀豊穰  
秦野・瓜生野百八松明

長さ2〜3畝のたいまつを権現山山頂に運んで日没ごろ点火。そろいの法被を着た子どもたちが先頭となり、麓の同寺前まで担いで駆け下りた。

門前では火の付いたたいまつを若者が振り回すたびに、火の粉が飛び散って勇壮な雰囲気となり、見守る人々から歓声が上がった。（浅川 将道）

太平洋戦争の資料や原爆に関する写真パネルなどを集めた「真鶴町非核平和都市宣言30周年を記念する平和祭」が、真鶴町真鶴の真鶴地域情報センターで開かれている。最終日の16日には町内の戦争経験者が疎開体験などを語るイベントも予定されている。地域住民有志の主催。

会場には広島・長崎への原爆投下に関する写真パネルや当時の新聞記事、「赤紙」のレプリカなど100点を超える資料が並ぶ。20〜30年前に住民や子どもたちが作製した戦争関連の文集などでは、地域の平和学習の歩みをたどることがで

